



慈舟山瑞泉寺 山門

〔豊臣秀次公四三〇回忌 特集展示〕

豊臣秀次と瑞泉寺

6月18日(火)～8月4日(日)
〔平成知新館1F-2〕4

天下人・豊臣秀吉の姉の子として生まれた豊臣秀次(一五六八～九五)は、秀吉の後継者として華々しい出世を遂げ、関白にまで上り詰めました。しかし秀吉に待望の実子が誕生すると、次第に両者の関係は疎遠となり、ついには謀反の疑いをかけられ、高野山にて切腹して果てました。秀次の自刃については、近年、秀吉が下した命令によるものではなく、秀次が自らの潔白を証するためにとった行動との説が唱えられるなど、この事件の真相はいまだ不明とされています。災禍は妻子にも及び、三十数名が洛中を引き回された上、三条河原で見せしめのごとく公開処刑されて、その跡地には秀次の首を納めた石櫃を頂上に置く塚が築かれ、心ない人は畜生塚と蔑称しました。慶長十六年(一六一一)、高瀬川を開削していた角倉了以が、鴨川の氾濫によって荒廃していたこの塚を見つけて再整備し、秀次一族の菩提を弔うため、この塚があった三条大橋のたもとに創建したのが慈舟山瑞泉寺です。その縁から、瑞泉寺には秀次一族に関わる品々が寄進されています。

本展では、秀次の生涯から瑞泉寺開創までの経緯を濃彩で描く「秀次公縁起」をはじめ、秀次と刑死した一族を描く三幅の集団肖像画、処刑の前に妻妾たちが詠んだという辞世の和歌の掛軸など、秀次とこの事件にまつわる作品を一堂に展示します。辞世和歌等の掛軸は、桃山時代から江戸時代中期の特徴を示す美しい小袖裂により表装され、「瑞泉寺裂」と称されています。寺伝によると、それらの裂は処刑された妻妾らの遺品と尊ばれてきました。時代の下るものは、江戸時代を通じて同山の大権越であった角倉家からの寄進の品かもしれません。いずれにせよ、これらの作品により、秀次事件という残忍極まりない人間の所業は後世に伝えられ、同時に、美麗な小袖を故人の形見とみなして莊厳に用い、その鑑賞を通じて犠牲者の死を悼む、という美のいとなみへと昇華されました。

江戸時代に成立した「太閤記」などにおいては、非人道的なふるまいから「殺生関白」ともあだ名されるなど、残忍な人物として記述される秀次ですが、キリスト教の宣教師として来日し、秀次を見知っていたルイス・フロイスは、秀次を思慮深い人として評価しています。また、古典籍を集め、古筆を尊び、能を嗜み、謡本百番の注釈書作成を命じるような文化人であったことも、同時代史料からうかがい知ることが出来ます。

秀次の四三〇回忌にあたる当年、これまでまとまらなかった形で紹介されることになった瑞泉寺の寺宝を紹介するとともに、秀次とその一族を偲ぶ機会となれば幸いです。

(山内麻衣子)



豊元天皇繪首 京都・瑞泉寺



小少將辞世和歌 京都・瑞泉寺



一の台辞世和歌 京都・瑞泉寺



豊臣秀次および眷族像 京都・瑞泉寺



豊臣秀次および眷族の墓



秀次公縁起(部分) 京都・瑞泉寺

平成知新館 名品ギャラリー

3F-1 陶磁

【茶の湯の道具 茶人】

6月25日(火)～9月8日(日)

3F-2 考古

【埴輪の人物と動物】

【日本の考古資料】

〔予告〕
〔特別展〕

法然と極楽浄土

10月8日(火)～12月1日(日)

前期展示：10月8日(火)～11月4日(月・休)

後期展示：11月6日(水)～12月1日(日)

※会期中一部作品は右記以外にも展示替えを行います。

〔平成知新館〕

本年は、浄土宗の開祖・法然（法然房源空、一一三三～一二二二）が開宗して八五〇年という節目の年にあたります。平安時代末期、内乱や災害・疫病の頻発によって人々は痛々しく疲弊し、釈迦の教えが廃れてしまったという末法思想が実感をともなつて広がっていました。そんな中、比叡山で学んでいた法然は、ひたすら「南無阿彌陀仏」と称えることによつて誰もが等しく阿彌陀仏に救われ、極楽浄土に往生できるという独自の教えを説き、多くの信仰を集めました。法然が唐代の浄土僧である善導（六一三～六八二）の著作からこの教えに辿りついたのが、承安五年（一一七五）のことといわれています。浄土宗は貴族から庶民まで広い階層の人々に支持され、その後の日本仏教の様相に大きく影響を与えながら、現代に至るまで連続と受け継がれました。

本展では、法然による浄土宗の立教開宗から、弟子たちによる諸派の創設と教義の確立、そして徳川將軍家の帰依によつて大きく発展を遂げるまでの歴史を、全国の浄土宗寺院等が所蔵する国宝、重要文化財を含む貴重な名宝によつてたどりまします。当館は巡回三会場中最多の出品数で、阿彌陀仏への祈りを託した彫像や浄土図・来迎図、法然への尊崇から生まれた肖像や絵伝、浄土信仰に限らない貴重な仏教典籍など、さまざまな美術や学問を培った浄土宗の思想・文化を一挙にご紹介いたします。

（井並林太郎）



国宝 法然上人絵伝 巻第六（部分） 京都・知恩院
（10月8日～10月20日展示）



国宝 阿彌陀二十五菩薩来迎図（早来迎） 京都・知恩院
（11月6日～12月1日展示）



重要文化財 阿彌陀如来立像 浄土宗
（10月8日～11月4日展示）

「ミュージアムパートナー」一覧

※令和6年6月末現在

京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

「ゴールド」 土屋 和之

株式会社 のぞみホールディングス

株式会社 俄 / Zのトラ株式会社

「シルバー」 学校法人 二本松学院

東レエンジニアリング株式会社

「ブロンズ」 原田清朗

「キャンパスメンバーズ」

※令和6年6月末現在

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および教職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。

学校法人 瓜生山学園 / 追手門学院大学 / 国立大学法人 大阪大学 / 大阪大谷大学 / 大谷大学 / 学校法人 大手前学園 / 学校法人 関西大学 / 学校法人 関西学院 / 国立大学法人 京都大学 / 学校法人 京都外国語大学 / 国立大学法人 京都工芸繊維大学 / 学校法人 京都産業大学 / 学校法人 京都女子学園 / 京都府立芸術大学 / 京都精華大学 / 京都先端科学大学 / 京都橋大学 / 京都府立大学 / 近畿大学 / 四天王寺大学 / 就実大学 / 成安造形大学 / 学校法人 大覚寺学園 / 帝塚山大学 / 学校法人 同志社 / 奈良大学 / 奈良女子大学 / 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 / 学校法人 二本松学院 / 花園大学 / 佛教大学 / 学校法人 立命館 / 龍谷大学

◆寄附

京都国立博物館では文化財とそれを守り伝えてきた先人の想いを次の二〇〇〇年へと繋いでいくため、広く寄附を募っております。このたび、左記の方より寄附をいただきました（五十音順）。寄附の趣旨を踏まえ、大切に活用させていただきます。

曹洞宗会知集第三宗務所 様

山田 誠司 様

千三百年前の月

京都国立博物館主任研究員 竹下蘭子

あまの原 ふりさけ見れば 春日なる
三笠の山に 出でし月かも

『古今和歌集』に収められるあまりにも有名なこの歌は、阿倍仲麻呂が唐で詠んだと伝えられる。奈良時代の養老元年（七一七）、阿倍仲麻呂は遣唐留学生として唐に渡り、時の皇帝・玄宗のもと官人として仕え、帰国を果たせないまま七七〇年に唐で生涯を終えた。遙か異国にいても空を見上げれば、かつて故郷の奈良で、春日の三笠山で見た月と同じ月が見える―千三百年の時を経て、仲麻呂の望郷の思いがひしひしと伝わる歌である。

十数年前のことになるが、ある先生が「阿倍仲麻呂じゃないけれど、月を見て異国を思ったことは初めてだよ」と仰った。先生が月を見たとき、私は中央アジアのタクラマカン砂漠の中心で同じ月を見ていた。シルクロードの西域南道に位置する于闐国の遺跡の調査隊に加わり、タクラマカン砂漠で一ヶ月のテント生活を送っていた。先生は月を見て、あいつは大丈夫だろうかかと心配してくださったのである。

砂漠での調査は気候の安定する時期を選んではいたものの、とても過酷であった。昼は四十度を超えるなか砂漠のなかを何キロも歩いて遺跡を踏査し、零下十度ほどになる夜はベースキャンプのなかで整理作業を行う。時折、気まぐれのような砂嵐が起こる。風によって運ばれた砂が丘を作り、その丘は刻々と姿かたちを変える。あたり一面、見渡す限り砂丘が続く。一つの丘を越えたと来た方角がわからなくなるので、GPSは必携である。用を足すときは人目につかないようキャンプから砂丘を二つばかり越えた先に行くのだが、夜にGPSを忘れて迷いかけたことがある。小用も命がけである。

四世紀末、インドへ求法の旅に出た中国僧の法顕はこの流沙を歩き、「上に飛ぶ鳥なく、下に走獸なし」と述べている。それから二百年後に「瑜伽師地論」という仏典を求めてインドへ渡った玄奘は、莫賀延磧と呼ばれるゴビ砂漠で九死に一生を得た。私がこの調査に参加したのは求法僧の旅路の苦勞を体感したいという動機であったが、法顕も玄奘も命がけで砂漠を旅するなかで、この夜空を見上げたこともあっただろうと、砂漠の月を見ながら思いを巡らせていた。

さて、話を元に戻すと、阿倍仲麻呂は玄宗の許しを得て帰国の途について。冒頭の歌は、送別の宴席で詠んだものらしい。仲麻呂は遣唐大使とともに第一船に乗ったが、船がベトナムに漂着して長安に戻ることとなった。同じ時、副使の第二船に乗って日本への渡航に成功したのが鑑真である。鑑真も本来であれば第一船に乗るところであったが、大使が唐との政治的な駆け引きで鑑真の乗船に消極的になったので、副使が独断で自分の船に乗せたことが幸いした。鑑真は日本への渡海に五回失敗して、その間に長年連れ添った弟子を亡くし自身も失明するが、それでも折れない強い決意、強烈な使命感にただただ尊敬の念を抱く。鑑真の伝記である『唐大和上東征伝』のなかで、鑑真が日本への渡航を決意するシーンに、長屋王から送られた袈裟が登場する。袈裟には「山川異域、風月同天」と刺繍されていた。当時の人が天を見上げつつながりを感じていたように、月を見ると地域どころか時代を超えて気持ちを通じることがある。文化財も同様で、文化財に接していると先人の真摯な心を感じる瞬間が多々ある。この心を守り継ぐことも現代人の本分であると信じている。

講座・イベント

〈土曜講座〉

- 7月6日(土)「戦国期の東国と画家たち」
京都国立博物館主任研究員 森 道彦
- 7月13日(土)「豊臣秀次一族の追善と瑞泉寺」
関西学院大学文学部教授 山川 暁氏
- 7月20日(土)「瓦伝来の道のり—東アジアから日本へ—」
京都国立博物館考古室長 石田由紀子
- 8月3日(土)「埴輪の人物と動物」
京都国立博物館研究員 古谷 毅
- 8月24日(土)「上田コレクションの密教図像の価値」
京都国立博物館教育室長 大原嘉豊
- 8月31日(土)「伝神写照—中国の人物表現」
京都国立博物館研究員 森橋なつみ
- 9月7日(土)「平成知新館 開館10周年記念
名品ギャラリーの魅力について」
京都国立博物館館長 松本伸之

※平成知新館 講座にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。

※当日9時30分より、平成知新館1階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。

〈光る影絵と人形劇〉

【日時】8月11日(日) 11時～、14時～ ※各回約1時間

【会場】平成知新館 講堂

【定員】各回200名

【参加費】無料(ただし、当日の観覧券等が必要)

【参加方法】事前予約または当日受付。詳しくは京都国立博物館ウェブサイトをご覧ください(7月上旬公開予定)。

これからの展覧会

- ◆特別展 法然と極楽浄土
10月8日(火)～12月1日(日)
- ◆新春特集展示 巳づくし—干支を愛でる—
令和7年(2025)1月2日(木)～2月2日(日)
- ◆特集展示 雛まつりと人形
令和7年(2025)2月15日(土)～3月23日(日)
- ◆特別展 日本、美のるつぼ—異文化交流の軌跡—
令和7年(2025)4月19日(土)～6月15日(日)

夜間開館のお知らせ

京都国立博物館では毎週金曜日、20時まで開館時間を延長しています(入館は19時30分まで)。

ゆっくりと静かにご鑑賞いただけるこの機会に、ぜひご来館ください。

展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいませようお願いします。

◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展とその前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー 休止期間：9月10日(火)～10月6日(日)

※上記期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

【開館時間】<5月28日～10月6日>

9:30～17:00

※金曜日は20:00まで開館

※入館は各開館の30分前まで

【観覧料】【名品ギャラリー】<6月18日～9月8日>

一般700円、大学生350円

※高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

※キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【庭園のみ開館期間】<9月10日～10月6日>

一般300円、大学生150円

※高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

※キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

※有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がございます。

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂下車すぐ

プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

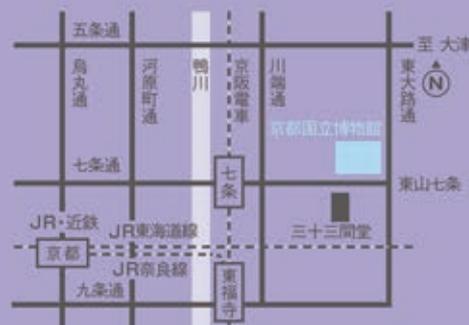
近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

※「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/>

X (旧 Twitter)・Instagram
@KyotoNatMuseum

公式キャラクター・トラリンサイト

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

発行日 令和6年7月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

